



りんご生産情報第3号
(5月15日～5月29日)

令和8年5月14日発表
青森県「農林水産力」強化本部

コンフューザーRの設置は速やかに！
結実状況を確認の上、早めに摘果を！

I 概 要

ふじの落花日は黒石（りんご研究所）で平年より6日早い5月9日であった。

コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地では速やかに設置する。

「ふじの落花10日後頃」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5月16～17日頃、「ふじの落花20日後頃」の散布時期は、5月26～27日頃である。

黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

結実の状況を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に摘果を進める。

本年は開花が早く、つる割れの発生が懸念されるので、満開20～30日後にヒオモン水溶剤を散布する。

腐らん病は見つけ次第適切に処理する。

Ⅱ 生育情報

1 生育、作業の進み、病虫害の動き

(1) 生育ステージ

ふじの開花日、満開日、落花日は、黒石（りんご研究所）で平年より6～8日早く、五戸（県南果樹部）で平年より6日早かった。

○開花日 (月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	4. 27	4. 27	4. 24	4. 28
	平 年	5. 6	5. 5	5. 4	5. 6
	前 年	5. 3	5. 2	5. 2	5. 5
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 2	4. 30	4. 28	5. 1
	平 年	5. 7	5. 6	5. 5	5. 7
	前 年	5. 6	5. 5	5. 3	5. 8
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	5. 1	－	4. 28	5. 1
	平 年	5. 8	－	5. 5	5. 8
	前 年	5. 7	－	5. 4	5. 8
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	4. 26	4. 25	4. 24	4. 27
	平 年	5. 5	5. 4	5. 2	5. 6
	前 年	4. 27	4. 26	4. 25	4. 28
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	4. 27	4. 28	4. 27	4. 29
	平 年	5. 6	5. 5	5. 4	5. 7
	前 年	5. 5	5. 5	5. 4	5. 5
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	4. 27	－	－	4. 27
	平 年	5. 4	－	－	5. 4
	前 年	5. 2	－	－	5. 3

注1) 開花日：1 樹で1～2 花開花したとき

2) 平年値：2006 年～2025 年の20 か年平均

3) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

○満開日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 4	5. 2	5. 1	5. 4
	平 年	5.11	5.10	5. 9	5.11
	前 年	5.10	5. 9	5. 7	5.10
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5. 7	5. 6	5. 4	5. 6
	平 年	5.12	5.11	5.10	5.12
	前 年	5.10	5.10	5. 9	5.11
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	5. 5	－	5. 3	5. 5
	平 年	5.12	－	5.10	5.12
	前 年	5.12	－	5. 9	5.12
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	5. 5	5. 1	5. 1	5. 4
	平 年	5.10	5. 9	5. 8	5.10
	前 年	5. 2	5. 1	4.30	5. 2
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	5. 5	5. 4	5. 3	5. 6
	平 年	5.10	5.10	5. 9	5.12
	前 年	5.12	5.10	5. 9	5.12
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	5. 1	－	－	5. 2
	平 年	5. 8	－	－	5. 8
	前 年	5. 4	－	－	5. 6

注) 満開日：頂芽花の70～80%開花したとき

○落花日

(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 9	5. 9	5. 5	5. 9
	平 年	5.16	5.15	5.13	5.15
	前 年	5.16	5.15	5.14	5.16
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5.12	5.11	5. 9	5.12
	平 年	5.18	5.18	5.15	5.18
	前 年	5.18	5.18	5.16	5.18
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	5.10	－	5. 6	5.10
	平 年	5.17	－	5.14	5.16
	前 年	5.16	－	5.14	5.16
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	5. 9	5. 8	5. 4	5. 9
	平 年	5.16	5.14	5.13	5.15
	前 年	5. 8	5. 6	5. 4	5. 7
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	5. 8	5. 9	5. 6	5. 9
	平 年	5.15	5.15	5.15	5.17
	前 年	5.16	5.16	5.14	5.17
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	5. 8	－	－	5. 7
	平 年	5.15	－	－	5.14
	前 年	5.14	－	－	5.14

注) 落花日：頂芽花の70～80%落花したとき

(2) 作業等の進み (5月12日現在)

腋芽花の摘花、王林の一つ成り摘果が行われている。

(3) 病害虫の動き

(5月12日現在 りんご研究所)

黒星病	子のう孢子及び分生子の飛散継続中 葉上病斑初発 (本年: 5月8日、平年: 5月10日) 感染危険度は農なび青森 (https://www.nounavi-aomori.jp/)に掲載中
腐らん病	病斑の伸展、孢子の飛散とも継続中
うどんこ病	分生子の飛散継続中
モニリア病	まもなく実腐れがみられる (平年: 5月19日)
リンゴハダニ	まもなく越冬卵からのふ化が終息する (ふ化終息 平年: 5月15日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中 (誘引初発 本年: 4月20日、平年: 4月29日)

2 作業の重点

(1) 交信攪乱剤の設置

コンフューザーRの設置がまだ終わっていない園地では速やかに設置する。

ディスペンサーの設置点を多く取ることが重要なため、園地全体に均一に取り付け、まとめて1か所に取り付けることはしない。園地の周辺部は性フェロモン濃度が低下しやすいため、多めに取り付ける。また、性フェロモンは空気よりも重いため、園地に傾斜がある場合には傾斜の上部に多めに取り付ける。雪害で樹が失われた場合でも、面積当たりの設置本数を減らすことなく、基準の使用量を守る(10a当たり100本)。

コンフューザーRの具体的な設置方法については、農なび青森に掲載している。

(<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8495>)



(参考) 栽植距離別の1樹当たりコンフューザーRの設置本数の目安

栽植距離	10a 当たり 栽植樹数	1 樹に設置する コンフューザーRの本数
8×8m (普通樹)	16 樹	6.25 本 (1 樹に6本設置)
4×2m (わい化)	125 樹	0.8 本 (5 樹に4本設置)
3.5×1m (高密植)	286 樹	0.35 本 (3 樹に1本設置)

(2) 「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布

「ふじの落花10日後頃」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5月16～17日頃である。地域や天候によっては散布時期が異なるので、前回の散布日や気象情報を参考にする。また、黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、10日間隔を守り、降雨前の散布を徹底する。

第4回目：「ふじの落花 10 日後頃」

地 域	散 布 時 期	基 準 薬 剤	散布量／10 a
黒 石 弘 前 三 戸	5 月 16～17 日頃	炭酸カルシウム水和剤 100 倍	350L
		ユニックス顆粒水和剤 2,000 倍	
		+	
		チウラム剤 500 倍	
		〔チオノックフロアブル トレノックスフロアブル〕	
		又はマンゼブ剤 600 倍	
		〔ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤〕	

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

(3) 「ふじの落花 20 日後頃」の薬剤散布

「ふじの落花 20 日後頃」の散布時期は、黒石、弘前、三戸で5月26～27日頃である。黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、10日間隔を守り、降雨前の散布を徹底する。

第5回目：「ふじの落花 20 日後頃」

地 域	散 布 時 期	基 準 薬 剤	散布量／10 a
黒 石 弘 前 三 戸	5 月 26～27 日頃	炭酸カルシウム水和剤 100 倍	420L
		デランフロアブル 1,500 倍	
		又はチウラム剤 500 倍	
		〔チオノックフロアブル トレノックスフロアブル〕	
		又はマンゼブ剤 600 倍	
		〔ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤〕	

うどんこ病の発生が多い園地では、コナケシ顆粒水和剤 4,000 倍、又はカッシーニフロアブル 2,500 倍も使用する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

(4) 摘果

実止まりや果実形質の良し悪しが判別できない時期（落花 10～15 日後頃）は一つ成り摘果を行い、判別できるようになった時点から、品種別の標準的な着果程度を目安に、仕上げ摘果を行う。さびなどの障害がない果実を見極め、ふじでは落花 25 日後頃までに終えるようにする。

結実量の多い樹から始め、葉が多く付いた果そうになった果実で、つる（果柄）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実（ふじではおよそ 2 cm 以上）はできるだけ摘み取る。

なお、霜害があった園地で摘果を行う際は、被害がごく軽微（果柄の傷など）であれば側果ではなく中心果を残す。また、不受精花（カラマツ）により、標準着果量が中心果で確保できない場合は、側果の中から形質の良いものを残す。結実量が少ない場合は、樹勢調節のために発育や果形の悪い果実でも残すようにする。

品種別の標準的な着果程度

品種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・恋空・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

(5) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

本年は開花が早く、大玉になりやすいことから、つる割れの発生が懸念される。ヒオモン水溶剤 3,000 倍を満開 20～30 日後に散布することで、つる割れの発生を軽減できる。使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1 週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布は避ける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

(6) マメコバチの管理

マメコバチ活動終了後の巣箱は、天敵類が侵入できないように農業用不織布などで被覆する。

ただし、巣箱に振動を与えると巣筒内の幼虫が花粉団子から落下し、死亡する恐れがあるため、7 月上旬頃に回収するまでは、巣箱をできるだけ動かさないように注意する。

(7) 腐らん病対策

2 年連続の豪雪被害により、枝折れ等の被害部位からの感染が懸念されるため十分注意する。常時園内を見回り、早期発見、早期治療を行う。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。切り取った枝等は伝染源となるため野積みしない。

胴腐らんは再発病斑を含め処置する。処置方法については、令和 8 年 4 月 23 日発表「りんご生産情報第 2 号」を参照する。なお、青森県産業技術センターの YouTube 公式チャンネルにも掲載している。

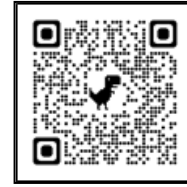
(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



トップジンM
オイルペースト
による治療



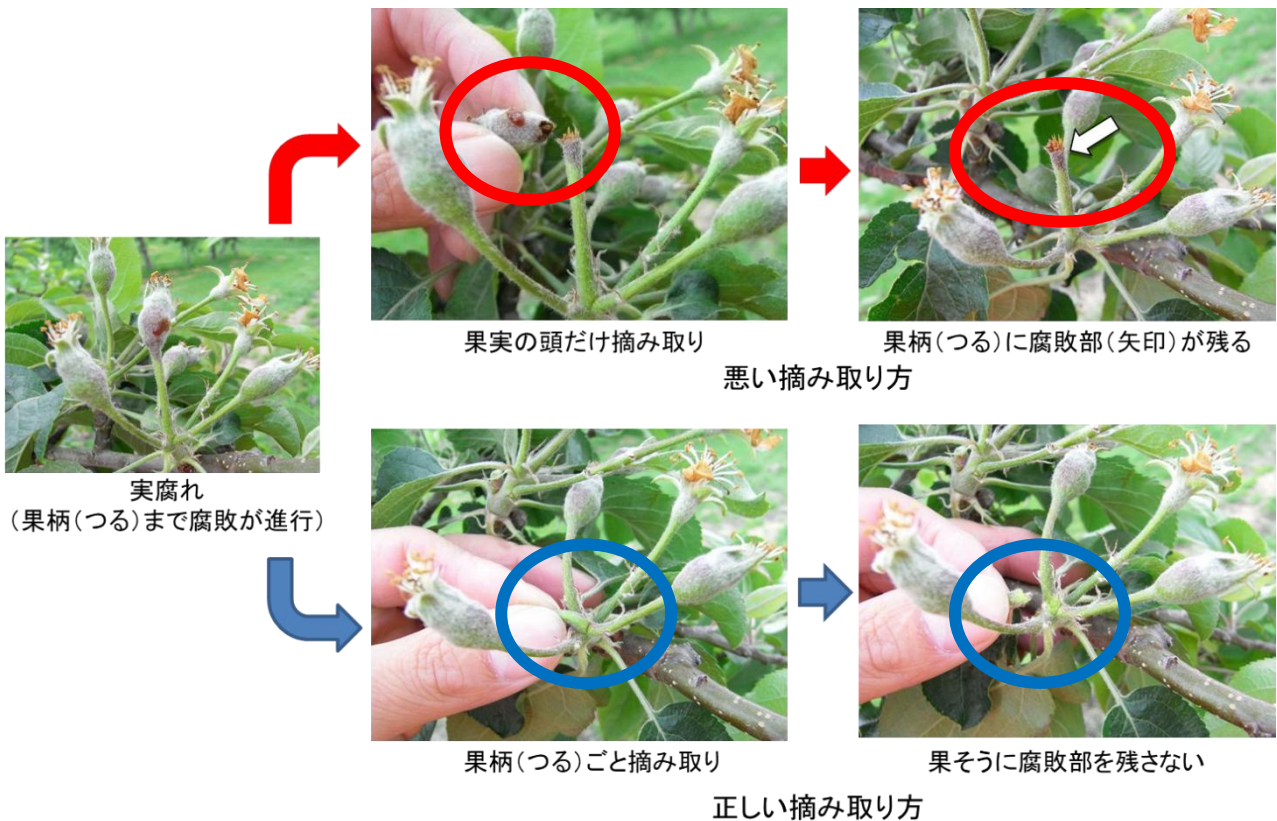
バッチレート
による治療



泥巻き法
による治療

(8) モニリア病対策

葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れは、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。



モニリア病の実腐れの摘み取り方

(9) 黒星病対策

「ふじの展葉1週間後頃」から「ふじの落花20日後頃」までは防除上最も重要な時期なので、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布ムラができないように基準量を守り、丁寧に散布する。降雨とともに子のう胞子が飛散するので、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。発病葉、発病果は伝染源となるので、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(10) 乾燥対策

若木や苗木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(11) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、直ちに葉面散布用の精製硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水 100ℓ 当たり 使用量（倍数）	
		5 月末まで	6 月以降
グリーントップ	16%	1,500 g（67 倍）	2,000 g（50 倍）
グリーントップ 70	23%	1,000 g（100 倍）	1,400 g（71 倍）

3 その他一般作業

（1）草刈り （2）ひこばえ、徒長枝の切り取り

4 今後の作業予定（5月30日～6月10日）

（1）薬剤散布 （2）摘果 （3）腐らん病対策 （4）モニリヤ病対策
（5）ビターピット防止対策 （6）草刈り （7）ひこばえ、徒長枝の切り取り

《 春の農作業安全運動展開中！（4～5月） 》

県では、春の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため、「春の農作業安全運動」を展開しています。
農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日） 》

- ・1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・詳細は県ホームページをご確認ください。
(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせるようにしましょう。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布しましょう。

《 モモシンクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

交信攪乱剤（コンフューザーR）は、
①温暖化でモモシンクイガの被害が増えていること
②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
③薬剤抵抗性害虫が顕在化していること
などの理由により令和6年からりんご病害虫防除暦の基準薬剤となりました。
ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、
必ず自園地にコンフューザーRを導入してください。

次回の発行は令和8年5月29日（金）の予定です。

連 絡 先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5144、5149
017-734-9492直通